

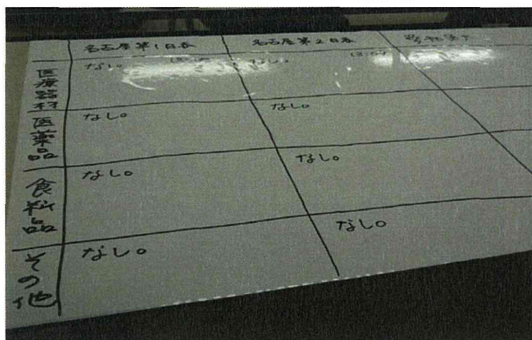
ロジスティックス拠点としての活動

【具体的業務内容】

県DMAT調整本部の指示を受け、愛知県内の6つの拠点本部に対し、

- 資機材（医療及びロジ関連、生活機材等）
- 宿泊場所
- 交通手段（タクシーなど）

のニーズ調査を実施した。



	名古屋第一拠点	名古屋第二拠点	豊田拠点
医療器材	なし	なし	なし
医薬品	なし	なし	なし
食料	なし	なし	なし
その他	なし	なし	なし



ロジスティックス拠点としての活動

【結 果】

- いずれも1時間以内で結果を取りまとめ、電子化して、DMAT管理メニューの掲示板を使って県DMAT調整本部に提供できた。

【課題および提案】

- 愛知県DMAT調整本部からの指示と返信について、ルール化が必要。
- 必要となる人員や体制について、検討が必要。
- 想定される主な後方支援業務内容とその標準書式などの事前準備の検討。

結語

- 豊田東インターチェンジおよび豊田保全・サービスセンターは、参集拠点として活用できる可能性が示唆された。
- NEXCO中日本、愛知県警との連携活動を検証し、今後の課題が明らかになった。
- 参集拠点本部立ち上げおよび運営を訓練により検証し、その効果と課題を明らかにした。
- ロジスティック拠点活動への可能性が示された。

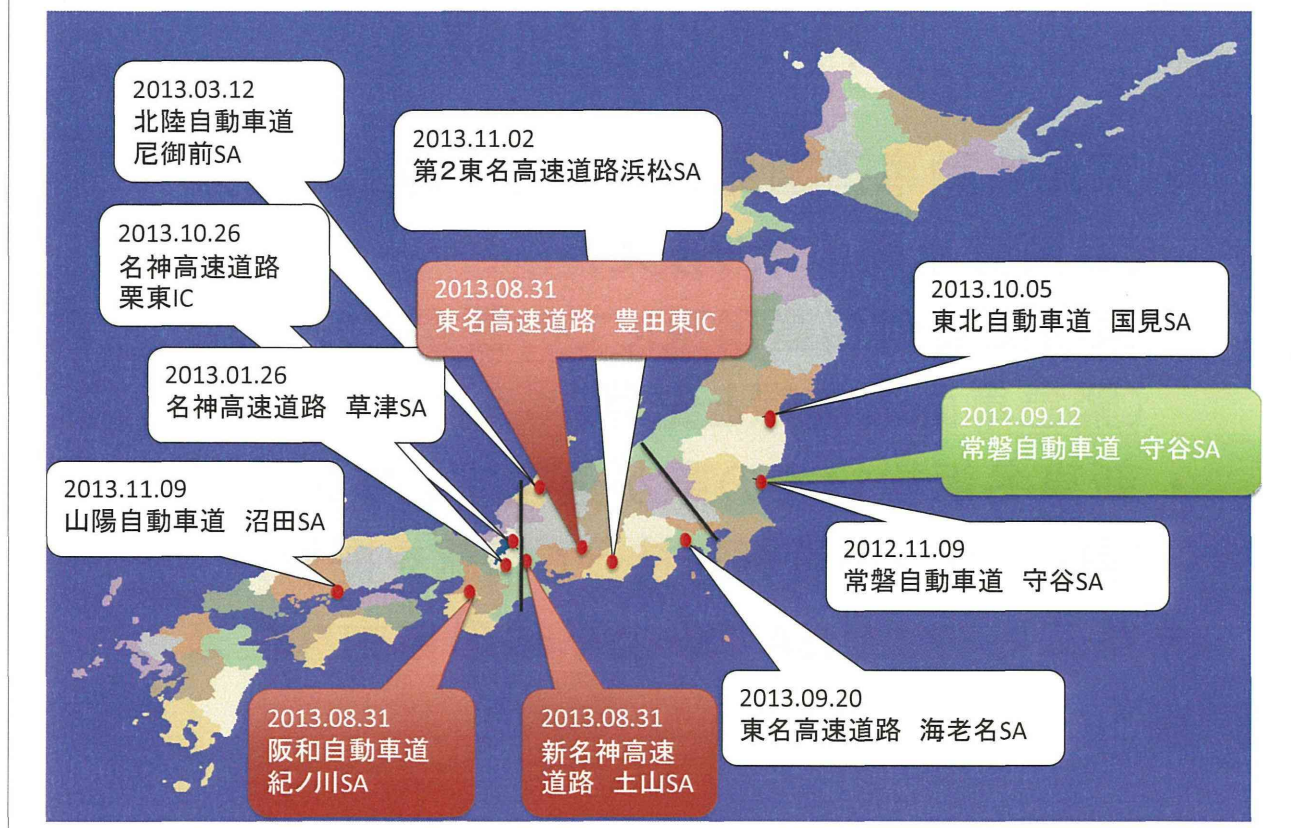
DMAT訓練に置ける高速SA/ICを参 集拠点にする事についての検証

大野龍男、小井土雄一、近藤久禎
、市原正行、小早川義貴、甲斐東
吾、萩原大貴、小塚浩

目的

- 昨年のこの集団災害医療学会で大規模災害時の高速道路SAの有用性について、検証した。
- 本年度はこれをふまえ各地域DMAT訓練及び政府広域搬送訓練でさらに利用し、より深く有用性使い方について検証を行なった。

DMAT、NEXCO協力実働訓練



DMAT & NEXCO訓練

日時	訓練主催	高速道路	参集場所	特徴	備考
2012.9.12	NEXCO東日本	常磐自動車道	上り 守谷SA	ヘリポート使用、各関係機関参加(進出部隊、サポートチーム)	
2012.11.9	関東ブロック訓練	常磐自動車道	下り 守谷SA	エアータントでの設置	
2013.1.26	近畿ブロック訓練	名神高速道路	下り 草津SA	赤十字無線中継	
2013.3.12	中部ブロック訓練	北陸自動車道	尼御前SA		
2013.3.19	NEXCO東日本	DIG訓練		有明の丘基幹的広域防災拠点	
2013.8.31	政府広域搬送訓練	東名高速道路	豊田IC/豊田保全	保全事務所を使用・警察との協力	21チーム
2013.8.31	政府広域搬送訓練	阪和自動車道	下り 紀ノ川SA	医療資機材の搬入集積	11チーム
2013.8.31	政府広域搬送訓練	新名神高速道路	土山SA	除雪車両基地/上下線からのアプローチが可能	18チーム
2013.9.20	関東ブロック訓練	東名高速道路	下り 海老名SA	エアータントでの設置	35チーム
2013.10.5	東北ブロック訓練	東北自動車道	下り 国見SA	自衛隊との協力/自衛隊車両への乗り換え/被災県外での設置	14チーム
2013.10.26	近畿ブロック訓練	名神高速道路	栗東IC/管理事務所	事務所内での活動	22チーム
2013.11.2	中部ブロック訓練	第2東名高速道路	上り 浜松SA	県の指定参集拠点	25チーム
2013.11.9	中国ブロック訓練	山陽自動車道	上り 沼田PA	テントにて仮設置 警察に道路使用許可申請	19チーム

特徴的な訓練

- 東北自動車道国見SAでの自衛隊との協力
(自衛隊車両の乗り換え)
- 東名高速道路豊田東ICでの警察との協力
(緊急車両の登録と先導)
- 新東名浜松SAでの県が運営する参集拠点
(県リエゾンが責任を持って情報を提供)
- 第二名神土山SAでの上下線の自由な往来





訓練の結果

- 参集拠点とする事は大変に有意義
ただし情報の集積と集中が必要
- 補給・集積場所としての有用性
コンビニやガソリンの補給、資機材の集中
- 休憩休息場所としての有用性
- 他機関との協力
今回は警察、自衛隊

今後の課題

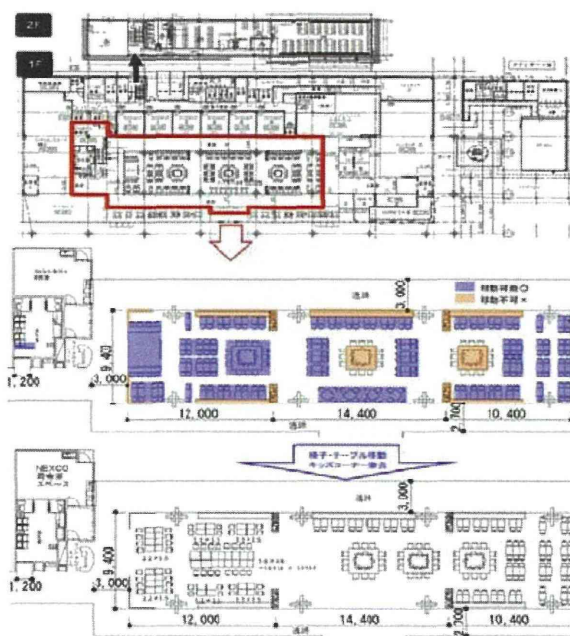
- 情報の共有
他機関の進出部隊(自衛隊、警察、消防等)
- 他業種との協力、調整
放送各社、通信事業者、天気など
- 静岡県のような行政のサポート(協定)
県をまたいだ時の支援や運営

3月14日の常磐自動車道守谷SA訓練

- リニューアル前の施設を使った訓練
- 首都直下に備えた施設の改造
(自家発電、GSのタンクの増設、井戸、ヘリポートの充実、災害に向けた売店の等の改造等)
- 進出部隊と支援部隊の協力

守谷SAの拠点化構想

守谷SA上 リバース運用■整備内容確認



高速道路の休憩施設における 危機管理強化

2014年2月25日

中日本高速道路株式会社



1. 高速道路の休憩施設における危機管理強化の取組み —背景—

(1) 東日本大震災を踏まえた緊急提言

平成23年7月14日高速道路のあり方検討有識者委員会において、東日本大震災を踏まえた緊急提言がなされた。

■評価された点

インターチェンジと一体開発された施設や道の駅が防災拠点として機能

- ①インターチェンジと一体開発された施設：南三陸町の災害対策本部として機能
- ②道の駅：自衛隊の活動拠点や住民の避難場所として機能

■今後の課題

他の交通モードや防災施設等との連携が重要

・高速道路のIC、SA・PA等を中心に、道路とそれを取り巻く空間について災害時に計画的かつ積極的な活用が必要

(2) 東日本大震災 現地での課題

東日本大震災を受け、新たな課題を認識。

■広域的な停電により、復旧活動の妨げとなった。

→ 自家発電設備の必要性

■一般回線の通話制限や業務用電話回線の途絶により、情報収集が困難であった。

→ 衛星通信、災害時優先電話等の必要性

■ガソリンの需要過多により、一般道並びに休憩施設での給油に制限がかかった。

→ 備蓄燃料の必要性

■帰宅難民や被災地周辺住民の避難・待機場所などが不足。

→ 一時的に避難出来る場所の必要性



高速道路の休憩施設における防災拠点化整備が必要



2. 高速道路の休憩施設における危機管理強化の取組み —現在の防災機能—

(1) 情報提供媒体

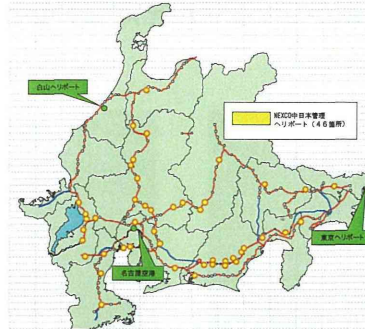


《情報ターミナル》



《簡易HIT》

(2) 防災ヘリポート

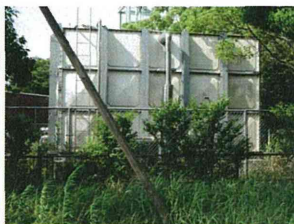


ドクターヘリポートについても各県運行調整会議等で調整中

(3) 自家発電設備



(4) 受水槽



(5) 防災備蓄倉庫



簡易寝袋、毛布、携帯トイレ など

(6) 地域貢献自動販売機



無人PAIに設置
時自ニュースの提供、災害時無償提供



中日本

これらの機能がすべて揃っているエリアは少ない

3

3. 新東名 浜松サービスエリアの事例 ～防災備蓄品～

高速道路のお客さまおよび周辺地域の方を支援するための防災備蓄倉庫及び備蓄品

防災備品	数量
マンホールタイプ Tent 付き	1
置きタイプ(ペール缶) Tent 付き	3
携帯トイレ(個)	550
紙おむつ(個)	90
生理用品(個)	68
ビニール袋(枚)	550
飲料	
ペットボトル500ml(本)	1,200(※1)
ペットボトル2ℓ(本)	(1,140)(※1)
電源	
太陽光蓄電	2
小型発電機	1
ガス発電機(プロパン)	1
明かり	
ドラムコード30m巻防雨型	3
LEDライト50W(200W相当)	3
ペリカン	6
救護	
救護用エアテント	1
リアカー・エアプロ	1
マット・担架5枚入り	1
担架折りたたみ式	1
救急セット50人用	1
炊き出しセット(食)	400(1,250)(※2)
簡易寝袋もしくは毛布(枚)	80
カセットコンロ&ボンベ	1

※1: 飲料水: 駐車場満車で2日分
 ※2: 食料: 駐車場満車で1日分(3食)
 (): 順次整備予定



マンホールタイプ Tent

100%分組セット付
置きタイプ
トイレ

携帯トイレ

紙おむつ・生理用品

フル充電
太陽蓄電

小型・ガス発電機

ペリカン

エアテント

スタンダード型床の決定版
エア・収納簡単
マット・担架
5枚入り

救急セット

毛布(非常用ブランケット)

簡易寝袋

コンロ